
昇天

藤村香穂里

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

昇天

【Nコード】

N4450C

【作者名】

藤村香穂里

【あらすじ】

その幽霊は、彼氏とのデート中に私の後について来た。 榊美穂は、16歳。死因は熱中症。エッチの経験なく死んでしまった美穂は、幸せそうなカップルを見て、後について来たくなったのだと言う。

(前書き)

連載のウォーミングアップにと短編を書きました。
大人の夏ホラーとして、他の先生方に先駆けて前座のつもりです。

その幽霊は、彼氏とのデート中について来た。

歩いていると、背中にぞくぞくとした気配を感じる。

振り返ると肩越しに女の子の顔が見えた。

目がぱっちりとして、顔が小さくてアイドル並みにかわいい女の子。

顔、そして白くてまるい大きな襟に水色のリボンまでははっきりと見て取れたけど、そこから下の体の輪郭はぼやけて、後ろの風景が透けて見える。

振り向いた私にっこりと微笑みかけてきた。

(は?)

私は目が点になってしまった。

「どうしたの?」

私の気配に恋人の司ツカサが声をかけてきた。

「うん。なんでもない」

私は……司の車に乗り込んだ。

でもね。バックミラーを見ると……座っているよ。後部座席に。

おまけにピクニックにでも行くように楽しそうじゃん!

(かっこいい彼氏だね!)

バックミラーに映る彼女がテレパシーで話しかけてきた。

(どうもありがとう。ところであなた何者?)

心の中で問いかけてみる。

(榊サカキ 美穂。永遠の16歳です)

そうか。享年16歳なのか。

そりゃ幽霊なら永遠の16歳だわな……。

一体何で現れたんだろう?

(お姉さん。どうして私が現れたのかって思ったのね)

あつ。そうか。全部、テレパシーでわかつちやうんだ。

(そう。聞きたいわね。どうしてここにいるのか)

(私ね。成仏できないのよ……)

それは、そうだろう。

どんな事情があつたかは知らないが、16歳で亡くなつちやあ、この世に未練があつて当然だ。

(事故？ それとも病死？)

(熱中症。部活してたら気分が悪くなつちやって……)

まあ！ 可哀相に。

熱中症。怖いんだよね……。

夏場は、水分をこまめにとって、日陰に入って休むようにしなくちや。

ほんと。気をつけないと。

(ご愁傷様。でも亡くなつてしまったからには、早く成仏できる事を願うのみね)

美穂は寂しげにうつむいた。

(でもね。私。この世に未練があるんだ)

可哀相だけど、どうしようもないじゃない。

(そりゃ、そうでしょうね。でも自分のためを思つたらね。前向きに捉えて。せめていいところへ行きなさい。ね?)

あゝあ。幽霊を説得しているよ。私。

美穂は顔を上げた。

(お姉さん！ 彼氏とエッチした?)

(は?)

いきなり何を言い出すんだ？ この子は！

(は。ええ。はあ。まあ……)

頭の中がしどろもどろになってしまった。

(いいなあ！)

バックミラーにうつる美穂のうらやましそうな表情。

(私さあ。経験ないんだあ)

『永遠の処女』そんなキーワードが頭の中に浮かぶ。

(もしかして、心残りってそれ……?)

おそろおそろ尋ねてみた。

(ご名答!)

美穂は大きな声で叫んだ……と言うかテレパシーの力が増したと言おうか。

16歳か。エッチに興味があつて仕方ない年頃だろう。

(だからね……幸せそうなカップルを見るとついて行きたくなつてだけだね、気づいてくれないんだよ。はじめて気づいてくれたのがお姉さんだつたってわけ)

そうか。私はわりかし霊感が強いほうかもしれない。

プラス美穂のこの世への未練の強さが相乗効果となつて、見えてしまったのだろう。

(しばらく一緒にいていい? 幸せそうなカップルと一緒に過ごせば、私も成仏できるかもしれないわ)

あの。思いつきりご遠慮したいんですけど。

でもこの子は離れないだろうな。

まあ、実害はなさそうだし……しばらくいれば?

気づくと、車は停車していた。

と言うか、ラブホの駐車スペースじゃないか! ここは。

美穂がいたずらっぽく笑っている。

(仕掛けたなー!?)

(うん。うん。以前から中がどうなってるのかなーって、気になつてたんだ)

美穂が、ダブルベッドをトランポリン代わりにはずんでいる。

嬉しくって仕方がない様子だ。

司はシャワーを浴びに行つてしまった。

DVDのリモコンがカタカタと動く。

美穂。勝手にDVDつけてるし……。

しかもDVDタイトル『覗かれないの』かよっ！

(あのさ。ちよっと遠慮してくれる？)

美穂にお願いしてみただけ。

(いやデース！)

無理か……。興味深々の16歳が立ち去るわけではない。

(恥ずかしいじゃん！ 私、露出趣味はないよ)

(私、幽霊だよ？ 彼氏には見えてないし。空気と一緒に。ねっ!?)
ぼわんと美穂は空中に浮かぶ。

きつと霊はどこにでもいて、エッチな場面から小説書いてるところまで見ているのかもしれない……。

ほづら、モニタの前のあなたの後ろとか……！

司が戻ってきた。

「何だ。来るかと思ったのに……。DVD見てたのか」

ちが……。ちがう。

そのDVDつけたの、私じゃありませんからー。

シャワーに美穂はついて来なかった。

戻ってみれば、司の肩越しに夢中になってDVDを見ているじゃない。

腰に手を当てて、すっくと司の後ろに立った。

(あのね。一応18禁だよ？ そのDVD)

(それは、この世の論理でしょう。私この世の者じゃないもん！)
もっともな理屈だ。

司の手が伸びてきて、二人一緒にベッドに倒れこんだ。

正直なところ、私は女性週刊誌にあるような「ピンクの象が見える」だの「頭の中が真っ白になって落ちていく」などと言う感覚を味わった事は一度もない。

どちらかと言えば、エッチは、司と触れ合っていられる事の方が嬉しかった。

でも見られているせいかしら。

今日は、興奮度合いが違う。
ちよつと司に触れられただけで、ぞくぞくしてしまふ。
そのうち次第に私は美穂の事はどうでもよくなってきて、自分の
感覚に身を任せた。

(ねえ。ねえっ！ お姉さん)

は？ 取り込み中なのに。

(何？)

(気持ち良さそうだね。ちよつと今だけ体を半分貸して)

何言ってるんだ？ この子は……。私に乗り移るって言うの！？

(あなた経験ないんでしょう？ 痛いわよ)

(痛くないもん。だって肉体ないもん)

そりゃそうだ。もつともだ……。って、納得してどうするのよ！

私の返事を待つまでもなく、美穂は私の体にすつと入り込んで
た。

一つの体に二つの魂。

最初は違和感があったけど、だんだんと馴染んできた。

(やったあ)。上手く行った。やっぱりお姉さんと私。波長が合う

のねー！)

合わなくていいっ！ そんなの。

だけど、美穂が入ってきてから、どんどんと体温が上昇してきた。

悪くない。この気分。

次第に呼吸が荒くなる。

ごつんごつんとベッドの端に頭をうちつけてしまふ。

かたかたと部屋の飾り物が揺れている。

有酸素運動。除夜の鐘108突きの煩惱。

もう思考回路は滅茶苦茶だ。

そのうちくらつと目の前が真っ白になった。

気持ち良い。もう我慢できない……。

(いっっちゃう~~~~)

思いつきり目の前がスパークした。

（ありがとうー。これで成仏できるわー）

朦朧とした意識の中で、黄金色の光に包まれ小さくなっていく美穂が見える。

（さようならー）

美穂は逝ってしまった。

「おいおい」

頬をびたびたと叩かれて、目が覚めた。

どうしていたんだろう。私。ここは……？

あれれ。司の部屋だ。

起き上がった私の額から、濡れタオルがずり落ちた。

「お前。外を歩いていたら急に気分が悪いつて言つて。ここで休んでいたんだよ」

差し出されたスポーツドリンクを受け取り、一口、二口と飲んだ。冷たくて喉越しもよくておいしい……。

「あれ……美穂は？」

「美穂って誰？」

今のは、夢だったんだろうか。

ホテルでの出来事も？

なんだか腑に落ちなかったけど……。

瞬間。私の目の前の空間にふわっと美穂の顔が現れた。

私に微笑みかけると、そのまま空中に溶けていった

(後書き)

コメディイホラーのつもりです。

昇天の響きは、笑点とも書けていいかなと思いました。

このお話はフィクションですが、作者は軽く熱中症になり、救急病院に行つて来た事実があります。

広告募集中

小説関連広告に最適です。
出版社や印刷会社はもちろん、
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくはPDF小説ネット広告募集をご覧ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4450c/>

昇天

2008年8月29日18時20分発行